

交通手段の確保と公共交通の充実に力を尽くして下さい 対策協議会の「鹿島鉄道線の存続断念表明」についてのコメント

鹿島鉄道対策協議会は 12 月 24 日に「新事業者の公募結果」として「応募した 2 団体とも不採用」という結論を出し、「鹿島鉄道線の存続を断念する」ことを表明しました。鹿島鉄道線の存続と再生を願って、署名・募金・PR・イメージアップ活動などに取り組んできた私たちにとって、とても残念な思いでいっぱいです。昨年 10 月から鹿島鉄道線の廃止の可能性を予測して「公的支援の継続と再生計画の作成」のための署名活動に取り組み、1 万 5 千人を超えるみなさんの声を集めたにもかかわらず、その声が反映されなかったことは悔しいかぎりです。また、私たちの声を反映する仕組みを用意していただけなかったことも残念なことの一つです。

とはいえ、83 年前の大正 11 年に地域の方々の出資で会社が設立されてから、公共交通機関として地域の発展に大いに貢献し、人々の生活に欠かせない存在となってきた「鹿島鉄道」を長年にわたって維持してこられた会社の働きに敬意を表したいと思います。また、知事さんをはじめとする茨城県、市長さんをはじめとする沿線 4 市、対策協議会のみなさん、私たちの活動を支えてくれた学校関係者や地域のみなさんに感謝したいと思います。この 3 ヶ月、結論をぎりぎりまで延ばして「存続・再生」の道を懸命に探っていたいただいた方々の努力にはとりわけ感謝しています。

さて、私たちも精一杯努力してきましたので、「廃線」をすんなり受け入れるには時間がかかりそうですが、鉄道に代わる交通手段の確保は待ったなしの状況です。私たちは、高校生の通学手段の確保と中学生の高校選択を保障するために、代替バスについても利用しやすいものにしていただきたいと思いますし、高齢者や子どもなど交通弱者のためにも、地域の公共交通を整備・充実にしてほしいと思います。そのために、次のようなことを関係者に要望していくつもりです。

《 県・市・バス会社などに要望したいこと 》

- ① 代替バスの運行計画の早期公表
- ② 説明会と公聴会の開催
- ③ 代替バスについての意見の集約と反映
- ④ 沿線高校連絡会の開催
代替バス等の沿線 6 高校への説明と意見の集約・反映。
- ⑤ 「地域公共交通対策協議会」の設置
県、沿線 4 市、バス会社、利用者（高校・病院等）・住民、有識者など